

看護管理者には、スタッフ一人ひとりの力を結集させ、生産性の高い活動による組織運営を行なうことが求められる。また、委員会やプロジェクトなどの活動では、課題達成に向けてリーダーシップを発揮しながら、効率的かつ柔軟な運営が期待されている。これは、グループ・ダイナミクスを最大限に活用し小集団活動の成果を上げていくことでもある。

しかし、生産性が高まるグループ活動とはいえない場面を、誰もが一度は体験しているのではないだろうか。終わってみると何ひとつ決定事項がなかったという会議を私も経験したことがある。組織運営に悩みながら四苦八苦している管理者が存在することは確かであるが、本書にはそういった悩みを解決し、管理実践に活用できるヒントが散りばめられている。

グループを「知る」「つくる」「診断する」「改善する」——4つのステップの紹介

本書の構成は4つのステップからなる。ステップ1「グループを知る」では、コミュニケーションの基本概念を説明し、チームとグループの違いや種類、その誕生から維持発展、解散までのプロセスについて解説している。

ステップ2「グループをつくる」では、グループをつくる手順と留意点を述べている。新しくグループをつくる前に立ち止まって考える勇気をもつことも大事で、熟慮した結果必ずしもつくる必要がない場合があることや、生まれたてのグループ・コミュニケーションを軌道にのせるコツを紹介している。

ステップ3「グループを診断する」では、既存グループ内のコミュニケーションを

診断する方法として、2つの診断方法を概説している。「カタチ」からの診断では、ネットワークの「カタチ」を図式化し、無駄を省くヒントを挙げている。「ナカミ」からの診断では、グループがもつ2つの機能（「課題遂行役割」「関係調整役割」）を説明し、各々におけるリーダーとメンバーの役割を概説している。

ステップ4「グループを改善する」では、グループ・コミュニケーションに伴う問題点をグループ全体のものと個人のものとに分けて、事例を挙げながら、対処法について解説している。

新任の看護師長・副師長・主任の部署運営に活かすことを期待

本書の特徴は、医療現場で実際起こり得るエピソードを取り上げながら、その問題状況と対処法を具体的に述べており、関心のある章から読み始めることができる点である。また、現状を見直すためのコツやヒントが散りばめられているので、新任の看護師長や副師長・主任の部署運営において、あるいはこれからリーダーを担っていく中堅看護師の育成にも活用できる。冒頭で「過去の方法にしがみつかない、柔軟な思考で直面する状況を克服していけば、職場に『よい循環サイクル』が生まれる」と述べられているように、よい循環をもたらすヒントが必ず見つかる」と確信している。

最後に本書の執筆のきっかけが書いてあるが、「教え子を守りたい」という思いに至ったエピソードには胸が痛む。「看護職にグループ・コミュニケーション学の考え方を紹介したい」という著者の強い思いを受け止めつつ、管理実践にぜひ活かしたいと思える本である。



「看護管理」実践 Guide 看護管理に活かす グループ・コミュニケーション の考え方

杉本なおみ, 小井川悦子 著
定価 2310 円
(本体 2200 円 + 税 5%)
日本看護協会出版会
TEL. 0436-23-3271

臨床現場で小集団活動に悩む 管理者のための一冊

上谷いつ子 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院副院長・看護部長

評
BOOK